

令和6年度小平市立小平第八小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全体の正答率は、全国平均を5ポイント以上上回り、「知識・理解」のポイントが高かった。特に「話すこと・聞くこと」や「読むこと」では、全国平均を約5ポイント上回った。一方、「書くこと」では、全国平均をやや上回るにとどまった。

課題

全国平均は上回ったものの、文章の組み立てに課題が見られる。また、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかという設問が、都の平均よりも下回っていたので、言葉の使い方に関する指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

週2回設定されているモジュール（15分間の学習）や家庭学習を利用して、漢字や言葉の指導を引き続き行う。語彙や表現力を高めるため、読書活動も大切にしていく。読書量を増やすことで、様々な文章に触れ、話の内容を正しく読み取る力を付けたい。作文については、書き表し方の基本を丁寧に指導し、ねらいや書く内容を明確にしてから、文章を書かせることにも力を入れる。

【算数】

状況の分析

全体の正答率は、全国平均より約10ポイント高く、どの領域でも全国平均を上回った。記述式の問題の正答率も平均に比べると高かった。基本的な学習内容は身に付いている児童が多く、特に「思考・判断・表現」のポイントが高かった。

課題

「データの活用」は、記述式の回答であったこともあるが、正答率が全体に比べると低い傾向にあった。他資料を目的に応じて活用する力を伸ばす必要がある。また、「速さ」の問題も記述式で正答率が低いことから、言葉で表現する力を付ける必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

ペア学習やグループ学習を取り入れ、考えを友達と交流する集団検討の場を設定する。習熟度別の発展コースでは、発展問題に精選して取り組み、統合的に考えたり、多面的に考えたりできるようにする。また、補充コースでは、既習学習に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る。「データの活用」では、複数のデータを比較しながら読み取るなどの活動を取り入れ、読み取ったことを表現する学習を積み重ねるようにする。

【質問紙】

状況の分析

課題

「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた児童は95%を超え、生活習慣が整っている児童が多い。「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立ちたい」と答えた児童の割合が全国と比べて高く、自己肯定感が育っていることがうかがえる。

各教科の「勉強が好き」と答えた児童が、都や全国の平均より低い。また、「友達関係に満足している」「学校が楽しい」という問いに対して30パーセントほど否定的な回答をしており、学習面、生活面で支援していく必要がある。加えて、授業や児童のモチベーションを上げるための工夫をさらに行うことが必要と考える。

学校で取り組む具体的な改善策

全教職員で共通した生活指導を行うことで、生活習慣や規範意識を更に身に付けさせていく。また、家庭にも学校での指導について説明し（保護者会・お便り等）協力を呼び掛けていく。児童を肯定的に認める言葉かけをすることは、よりよい人間関係の構築につながるという意識を教員がもち、各授業の中で言葉への意識が高まるような指導を行う。また、一人一人が活躍する機会を設定し（行事等での役割・委員会活動での発表・ブロック班活動・各教科学習での発表等、）言葉で表現する経験をさせることで自信を付けさせていく。学級会を通して、学級がより充実した実感をもたせられるように、児童発案の取組を実施し、価値付けていく。教科の学習では、ペアやグループ等学習形態を工夫したりICT機器を効果的に利用したりし、児童の学習意欲が高まるような指導を工夫していく。